

2014年3月18日

SDJBA 定例会

千葉レティシア スピーチ 要約

皆さん こんにちは

一目惚れって信じますか？

夏の間アカプルコに親戚の人たちとよく過ごしたものです。6人のいとこ同士のグループで、10代の時です。10代の頃は毎日泳ぎに行ったり、毎晩ディスコにダンスに行ったり、映画を見に行ったり、などなどすることがいっぱいあるにも拘らず、退屈することがたびたびあります。

いとこ達とアカプルコを訪れた1965年の夏のことです。浜辺で、次は何をするってワイワイガヤガヤやっていた時、従兄の一人が、「日本の船にいてみようよ。2,3日前からここに停泊しているよ」そのころアカプルコ港は貿易港でした。従兄は船に行つて、日本のきものや、日本の何かいいものが買えるのじゃないか、と考えました。

家に帰りこのことを母に話しました。母は私たちが日本の船に行くことに興味を示したことをうれしく思いました。グループの引率者として母も一緒行くことになりました。船の入り口で船長が私たちのガイド役の千葉昌義を紹介してくれました。なんて素敵なマリナーなのだろう。彼は懸命に船がどのようにして航海するかを説明してくれますが、私たちはクスクスと笑い始めました。母は厳しい顔をして、クスクス笑うのはおやめなさい、と叱責しました。Mr. 千葉は私たちがティーンエイジャーで、船のことなど興味ないことを知ってるのかしら？私は母がしつけに厳しいことを知っていますから、母のいうことを聞いて、おとなしくしました。

いとこ達みんなも母の厳しい顔を見て、Mr. 千葉のいうことを聞き始めました。船内見学が終わり、船長が見学者の人たちに乗組員からサプライズがあります、と説明がありました。彼らが歌を歌うのです。みんなは歌を楽しんでいました。

そこで Mr. 千葉が私を見て微笑んでいることに気が付き、突然全身鳥肌立ちました。どうしてなのかわかりませんでした。スキヤキソング(上を向いて歩こう；坂本九)が始まるまでそんなことはなかったのですが、お互いに見詰め合い、まるで Mr. 千葉が私にだけ歌ってくれているように、この船に二人だけしかいないように思えました。

Mr. 千葉が「翌日船は日本に向けて出港するから、見送りに来ないか？」と尋ねました。母の許しを得て Mr. 千葉にさようならを言いに従兄が波止場まで車で連れてくれました。群衆をかき分けながら、全乗組員のなかから、そしてみんな日本人の中から、彼を見つけ出すなんて無茶な話と、思いました。船のすぐそばまで行き、彼を探しました。突然左手を私に向けて大きく振り、そして右手にソンプレロを振ってビバメヒコ！と大声で叫んでいる彼を見つけました。

見送りの人々は三三五五帰り始め、人影がどんどん少なくなってきましたが、Mr. 千葉と私は、お互いの姿が見えなくなるまで手を振って、同じ場所に立っていました。

二人は手紙をやりとりしました。彼は日本人の妻と結婚し、その25年後悲しいことに彼女は癌で亡くなりました。私は結婚生活22年の後、離婚しました。二人はシングルにもどりました。彼は男やもめを6年、そして私は離婚して4年後のことです。一度も会うことなく34年後、私たちは再会しました。

私はとても長い歳月の後に二人は好きでなくなっていることを恐れました。かれは {「レティ、ふたりが会ったとき、愛の種をお互いの心に植え付けられたのだよ、この種が育ったかどうか、今が確かめる時だよ。

ホノルル空港で私たちお互いを見たとき35年の歳月が消え去りました。彼は、「一度レティを手放したけれど、もう2度目はないよ。お互い年を取ってきたし、つらい思いもし、そして今二人はシングルなんだ。結婚しよう。」 私たちはキスをし、目の前がクラクラとしたことを、皆さんにはっきり言えます。

再びお尋ねしますが、一目惚れって信じますか？私は信じています。このお話が一目ぼれでなかったら、一体何なのでしょう！

☆☆☆☆ 会員紹介 ☆☆☆☆

千葉昌義

前略

・・・・・・・・神戸商船大学、東京商船大学の2校が目に残りました。全寮制、1年生から3年生まで毎年1か月間の乗船実習があり、日本列島を周航できそう。4年生の卒業前には3か月の工場実習と3か月の遠洋航海訓練。なんだか楽しそう。ここに決定！！

生家の京都から近い阪神電車深江駅近くの神戸商船大学商船学部機関学科（現神戸大学海事科学部）に入学しました。

合計1年間の実習があるため、毎年の夏休み、春休みが他の大学に比べて合わせて一か月弱短く、卒業が通常3月のところ9月末と6か月遅くになっています。入学後も厳しく勉学しなくてよい、という意味で選択は正解でしたが、今まで通り遊べそうなところ、という観点からは、休みが少なくて期待通りではありませんでした。

数コースあるメインイベントの遠洋航海訓練はメキシコ合衆国アカプルコを選択しました。晴海ふ頭から約40日の航海を経てアカプルコに入港。初めての外国です。

40日間、男だけの生活、群青色の大海原、日の出前の緋色の、日没直後の茜色の水平線を見飽きた私に、日本を離れて初めて見た陸地カリフォルニア半島のみどりが目に沁みます。さらに南下して無事入港。今度はセニョリータが目沁みます。女性ってこんなに美しいのだ…。

アカプルコ市の歓迎会、練習船見学者の案内、国際交流行事、船内整備など結構忙しく1週間の停泊はあっという間でした。そして晴海ふ頭に向けて出港。ラジオの音声も心細くなり、やがて聞こえなくなると耳につくのはエンジンの音と波の音だけ。往路とおなじ毎日の実習作業の繰り返しです。群青色も茜色も緋色も同じです。

ただ一つ違ったのは、船内で実習生が赤痢を発病したことです。隔離船室が設定され一人ふたりと、毎日非感染船室から姿を消してゆきます。…………

中略

平成8年（1996年）8月妻京子が癌のため先立ちました。

同じころレティは、離婚し体調を大きく崩していました。レティシアは前述の航海訓練で寄港したアカプルコで、練習船見学者として母親、従兄たちとともに本船を訪れ、その見学案内を私が担当しました。レティは16歳、私は22歳の時です。

平成 11 年（1999 年）8 月に日本とアメリカの中間のハワイで再会し、2001 年 4 月 29 日結婚式を挙げサンディエゴカウンティ・サンマルコスに婚姻届を提出し二人の新しい生活を東京でスタートしました。・・・・・・・・

以下省略+